

備前市事務事業評価表

事務事業名	図書館運営事業		コード	担当課	市立図書館
			03-02-05-01	担当者	大森直子
事業実施期間	電話 0869-64-1133				
総合計画 事業（政策）体系	大項目	地域文化と人が輝くまちづくり			
	中項目	生きがいのあるまちづくり			
	小項目	図書館			
	施策	図書館の充実			

事業について	
目的	図書、記録、その他必要な資料を収集、整理、保存して、市民の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資する
対象 (誰のために)	市内在住・在勤の市民
内容	図書の貸出、レファレンス・サービス(各種問い合わせ対応)、移動図書館車の巡回、乳幼児や児童への読み聞かせ会、講座、ブックスタート(乳児を持つ保護者に絵本を手渡し、絵本の楽しさを知ってもらふ事業)等の実施。

事業の結果			
実施項目	17年度		
	回数など	(単位)	回数など
図書の年間貸出実績	111,786	冊	
入館者数	48,192	人	
読書啓発行事参加人数	2,547	人	
ブックスタート参加人数	572	人	
レファレンス件数	6,536	件	

事業費 (単位：千円)	事業費		財源		事業費		財源	
	直接事業費	17,949	国庫補助金等		直接事業費		国庫補助金等	
	人件費	10,412	受益者負担		人件費		受益者負担	
	合計	28,361	市債		合計	0	市債	

必要人員	4.31	人		人
結果指標名	図書の年間貸出実績			
結果指標量	111,786			
単位	冊			
対前年比	0.00%			
事業費	28,361,000	円		円
単位当たりコスト①	269	円		円

結果指標名	入館者数			
結果指標量	48,912			
単位	人			
対前年比	0.00%			
事業費	28,361,000	円		円
単位当たりコスト②	614	円		円

事業の成果			
成果指標名	図書の1人あたりの貸出冊数	式又は説明	1人あたりの貸出冊数＝貸出冊数／人口
成果指標量	2.7		
対前年比	0.00%		
到達目標値	4	到達目標年度	平成20年度

事業の目的、対象、内容を考えながら目的の妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。

(平成17年度事業)

事務事業の評価		
目的・対象・内容の妥当性評価	目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 関係法令等で目的が定められており妥当である <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化しつつある <input type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的は妥当である <input checked="" type="checkbox"/> 関係法令等：市立図書館設置条例第3条
	対象の妥当性	<input type="checkbox"/> 受益者の拡大を検討する余地がある <input type="checkbox"/> 受益者の縮小を検討する余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 現在の対象者は妥当である
	市民ニーズの妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民、団体などから要望・要請のある事業である <input type="checkbox"/> 市民に概ね好評な事業である <input type="checkbox"/> 公共秩序の維持、行政の適正運営に必要な事業である
	市の関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 国・県又は関係法令で定められている事業である <input type="checkbox"/> 民間に類似サービスがある <input checked="" type="checkbox"/> 本市が関与すべき事業である <input type="checkbox"/> 事業を取り止めた場合の影響は大である
効率性の評価	コストの効率化	<input type="checkbox"/> 単位当たりコストは増加傾向にある <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の努力をしている <input type="checkbox"/> できる限り民間活力を利用している <input type="checkbox"/> 受益者負担額は適正である
	手段の最適化	<input checked="" type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で確認・見直しを行っている <input type="checkbox"/> 他に有効な代替手段が見当たらない <input type="checkbox"/> 事業は他部署と密接な連絡調整を行っている
	職場の効率化	<input type="checkbox"/> 事業に関して事務改善等作業効率の向上に努めている <input checked="" type="checkbox"/> 事業に関するOJT（職場研修）は行われている <input type="checkbox"/> 事業の進行管理を定期的に行っている <input type="checkbox"/> 事業実施について職員の見解・要望が反映しやすい
有効性の評価	目的達成度	<input type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである <input type="checkbox"/> 成果指標は前年度より向上している
	成果向上の可能性	<input type="checkbox"/> 成果は向上しており今後も向上する見込みである <input checked="" type="checkbox"/> 今後、成果指標は向上する余地がある
	市民参画度	<input checked="" type="checkbox"/> 事業について積極的に情報提供している <input type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映している <input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している <input type="checkbox"/> 事業のプラン作りから市民参加を得る手段をとっている

課題認識  
合併後、年度中に分館の図書館システムが整備された。年度末の利用者登録率は15%(平成18年4月1日付人口41,357人、登録者6,196人)となっている。合併に伴い対象地域が拡大し、異なる利用者の増加が見込まれる。そのためには、図書及びサービス(レファレンスやインターネット予約等)の充実とその周知の徹底、また子どもの読書活動の充実を図ることが必要である。サービスを行う上で、地域格差がないように、移動図書館車のルートの変更等も検討する必要がある。

図書整備については、購入計画、収集方針に基づいて行っているが、年々多様化している利用者からの要望にこたえるため図書効率化のため、岡山県図書館の相互貸借システムと巡回サービスを利用し、県内の図書館とも協力してサービスを行っている。また、職員も時々集まり、よりよい図書館運営のために業務研修会や意見交換をしている。

各種媒体により、市民に対して図書館の本の紹介、催し物のお知らせをしているが、市ホームページやケーブルTVを定期的に活用するなど更なる広報活動が必要である。定期的に行っている乳幼児や小学生の読み聞かせには、地域のボランティアの方々の協力があり定着している。また、ブックスタートにおいても親子で絵本を読むきっかけとなり、図書館へ来館するきっかけになっている。

総合評価	
コメント	年々増加している図書のリクエストについては、図書館協会の相互貸借と巡回サービスで、図書の購入を抑えながらこたえることができた。また、子どもの読書活動の推進のために行った行事によって、読書のきっかけをあたえることができ、貸出冊数も増えた。
評価区分	<A~E>
	B

今後の方向性	<input type="checkbox"/> さらに重点化する(行政資源を集中的に投入する) <input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する <input type="checkbox"/> 現状のまま継続する <input type="checkbox"/> 休止・廃止を検討する <input checked="" type="checkbox"/> 見直しのうえで継続する <input type="checkbox"/> 完了・統合		
翌年度結果指標量①	166,000	結果指標量②	50,000
目標値	4		

改善事項			
評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果
妥当性	市HP、館内外での催し物の掲示による利用者への図書館サービスの周知徹底。	平成18年度	図書館の様々なサービスや読書活動の周知によって、より幅広く利用されるようになる。
効率性	図書館協会の相互貸借の参加、県立図書館資料の貸出・返却の受付サービス。	平成18年度	館外の利用者が、当館に来館することによって、新たな利用者としての登録が見込まれる。
有効性	ブックスタートのほか、子どもの読書活動推進のため各種行事を行う。	平成18年度	乳幼児から小学生までを対象に読書の楽しさを知り、読書の習慣を養い、将来の利用率向上を図る。